

「当院にて炎症性腸疾患でご加療中の方へ」

当院では炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）における診療記録・保存検体を利用した前向きおよび後ろ向き解析（多施設共同研究）に参加しております。この研究は、炎症性腸疾患の患者様の血液や大腸癌の細胞を解析することを通じ、炎症性腸疾患における発癌をより正確に理解することを目指すもので、当院を主任施設とする多施設共同前向きおよび後ろ向き観察研究です。

【研究課題】

炎症性腸疾患患者における診療記録・保存検体を利用した多施設共同観察研究

【対象となる方】

1979年1月1日～2019年3月31日の間に検査・加療された潰瘍性大腸炎およびクローン病患者

【研究期間】

研究倫理審査委員会承認後から5年間を予定

【研究背景と目的】

炎症性腸疾患の患者さんには、合併症の一つとして大腸癌が発生する場合があります。知られています。特に、発症後長期間経過するとその頻度が高くなることが分かっています。これまでに様々な研究が行われてきましたが、炎症性腸疾患の患者さんにどうして癌が発生するのか、まだ十分明らかにされていないのが現状です。もし、癌の発生する仕組みを十分明らかにすることができれば、癌の診断や治療のために役立つ有用な情報が得られる可能性が考えられます。そこで本研究では、炎症性腸疾患における大腸癌発生に関して、遺伝子学的に解析を行い、その仕組みを明らかにすることを目的としています。

【研究方法】

この研究は、厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を守り、倫理委員会の承認の上実施されます。これまでの診療でカルテに記録されている血液検査や尿検査結果、画像検査、病理検査などのデータ収集及び、残検体（内視鏡検体・手術検体など）に対する免疫染色などを用いて行う研究です。特に患者様に新たにご負担いただくことはありません。

この研究にご協力いただくかどうかは、研究参加者の皆様の自由意思に委ねられています。この研究のためにご自分のデータを使用してほしい場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局までご連絡下さい。ご連絡いただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。なお、研究にご協力いただけない場合にも、皆様の不利益につながることはありません。研究期間中にご本人の申し出があれば、いつでも採取した血液や遺伝子を調べた結果を廃棄します。また、関連する情報・データもそれ以降研究目的に用いませぬ。

研究結果は個人が特定できない形式で厳重な管理のもと、研究終了後原則5年間保存されます。ご不明な点がありましたら主治医または研究事務局までお問い合わせ下さい。

【研究機関名及び研究責任者氏名】

研究機関 東京大学大学院医学系研究科臓器病態外科学講座・腫瘍外科学

研究責任者 教授 石原 聡一郎

担当業務：検体収集・データ収集・データ解析

【共同研究機関】

兵庫医科大学病院 IBD センター

本研究に関する費用は、東京大学大学院医学系研究科臓器病態外科学講座・腫瘍外科の研究費（東京大学委任経理費）から支出されています。

【連絡先】

東京大学大学院医学系研究科臓器病態外科学講座・腫瘍外科学

研究責任者：石原 聡一郎

連絡担当者：品川 貴秀

住所：〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

電話：03-5800-8744

医療機関名：東京大学医学部附属病院

診療科名：大腸肛門外科

診療科責任者：石原 聡一郎